

平成28年度事業報告

平成28年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

(1) 戦跡慰霊巡拝

ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝を高知県地域福祉部長、県議会副議長及び遺族の参列を得て、11月12日～14日まで2泊3日の日程で実施した。土佐之塔建立50周年を記念し、また、次世代育成への寄与を目的として、昨年度に引き続き孫・ひ孫の参列者について自己負担を半額として募集し、13名の参加を得ることができた。

【参加人員 46名】

イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県へ広報を依頼するなど広く参加者を募ったものの、遺児の高齢化などにより1地域へ1名の参加にとどまった。

【西部ニューギニア 1名】

(2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に役員が参

列し、追悼の言葉を述べるなど英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 27ヶ所、 追悼電報対応 7ヶ所】

さらに、平成29年1月30日から2月4日まで、本会と高知県フィリピン遺族会が共催しフィリピンへの慰霊巡拝を実施し、本会会長ほか遺族17名の参加があった。慰霊巡拝には高知県議会議長が同行されたほか、2月3日のカリラヤでの合同慰霊祭には高知県から担当副部長、チーフの参列をいただくことができた。

また、高知県護国神社や靖国神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

(3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、県とともに遺族団を引率・参列するとともに、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に参拝し戦没者の追悼を行った。

・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 73名

(子35名 兄弟姉妹11名 孫7名 その他20名)

付添職員等 13名 [県職員、遺族会役員等]

2. 広報啓発事業

遺族会報を毎月5,600部発行し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県下各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに希望者に配布し(月250部)、英霊顕彰運動等の普及を図った。

3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、これまで活動の中心となってきた遺児の高齢化に伴い、遺族会の活動や組織維持についての方向、それに関連しての戦没者遺族の処遇改善、財源の確保など多くの課題を抱えている。

こうした課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、会員の資質向上及び遺族運動への理解を深めるための研修会を開催するなど、主に次の事業を実施した。

(1) 遺族運動の推進

次の会議にそれぞれ代表を派遣し、遺族の処遇改善等の運動を展開した。

・全国戦没者遺族大会

日本遺族会により、12月15日に自由民主会館8階ホールに全国の遺族代表約400人が参集して、英霊顕彰運動の推進や遺族の福祉向上に向け、第72回全国戦没者遺族大会を開催した。

本県からは、会長・副会長をはじめ6名が参加するとともに、地元選出の自民党所属の国会議員5名に対して、総理・閣僚の靖国神社参拝の定着、特別弔慰金の支給要件の見直しなど戦没者遺族に対する処遇の改善などの陳情を行った。

【全国戦没者遺族代表者会議】

平成28年12月15日 自由民主会館400名参加

本県6名

・日本遺族会中国・四国ブロック遺族会会議

28年度は徳島県が当番県として9月6日と7日の両日、徳島市内で開催され、日本遺族会及び中・四国9県が参加した。

会議では日本遺族会からの中央情勢についての報告の後、各県提出議題の検討が行われ、全国の遺族会にとって喫緊の課題

となっている「青年部」の組織化に向けて各県が全力で取り組むことが、ブロックとして決議された。

【50名参加 本県4名】

・青年部の組織化に向けた研修会と結成式の開催

日本遺族会は、戦没者の孫・ひ孫を中心とした「青年部」の組織化に向けた取り組みを進め、平成28年4月22日と23日の両日、三回目となる「日本遺族会青年部の組織化に向けて女性部との合同研修会」を実施した。本県から女性部会員ら3名が出席、分科会での検討・協議に参加した。

【全国参加者 42支部136名 本県3名】

こうした取り組みの結果、平成29年3月24日午後、参議院議員会館講堂において日本遺族会青年部の結成式が開催された。

(2) 老人福祉事業

100歳、85歳を迎えた戦没者の妻を遺族大会で表彰し、これまでのご労苦に感謝した。

【表彰者 100歳 8名、85歳 1名（未表彰者）】

(3) 女性部事業

日本遺族会が行う青年部との合同研修会への参加や壮年部との合同研修会を開催するなど女性部指導者としての資質向上に努めた。

本年の壮年部との合同研修会は、一泊研修として、会員16名が参加し、徳島県・香川県方面において実施した。

両県護国神社、徳島県遺族会戦没者記念館、陸上自衛隊善通寺駐屯地などの視察研修を行った。

(4) 壮年部事業

戦後70年余が経過し、遺族会を実質的に担うのは遺児の世代になっている。遺族会が置かれている厳しい現状を認識し、今後とも英霊顕彰、遺族福祉の向上などの遺族運動を推進していくために、女性部と合同で、(3)のとおり一泊研修を実施した。

(5) 遺族大会

県民挙げて、平和を祈念し英霊顕彰に取り組んでいくことを目的に、遺族運動の現状や課題等について議論し情報の共有化を図るため、高知県戦没者遺族大会を開催した。

28年度の大会は、5月28日にドリーマーベイシャトーで、下記のとおり開催した。

- ・参加者 400名
- ・講演 講師 高知県護国神社学芸員 松岡 司 氏
- ・演題 「維新殉難志士から今次大戦戦没者までの顕彰を」

